

番組審議会

第689回

2025年1月20日

■ 審議会の構成

出席委員数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 尾 縣 貢 萱 野 稔 人

喜田村 洋 一 田 中 東 子

洞 口 依 子 長 嶋 有

水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 龍 宝 社 長

合 田 専 務

井 上 取締役

三 城 コンテンツ戦略局長

菅 原 スポーツ局長

阿 蘇 コンテンツプロデュース部長

七 澤 「SASUKE」

チーフプロデューサー

宮 崎 「SASUKE」プロデューサー

藤 田 編成考査局長

浜 崎 カスタマーサクセス室長

満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「SASUKE 2024～第42回大会～」

12月25日(水) 18:00～23:10放送

(2) その他

2. 報告事項

(1) BPO報告

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】（「SASUKE2024～第42回大会～」）

「名もなきアスリートたちのオリンピック」をコンセプトに1997年放送開始した「SASUKE」。現在165の国と地域で放送、昨年夏には番組史上初となる世界大会を開催。さらに2028年ロサンゼルス五輪からこの「SASUKE」を基に考案された障害物レースが近代五種の種目に採用されることも決定している。

42回目となる今大会は、パリ五輪金メダリストなどこれまでにない精鋭100人が聖地・緑山に集結。難関エリアが挑戦者の前に立ちはだかる中、新たな怪物プレイヤーも登場。果たして、4年ぶり5人目となる完全制覇は？

【委員の主な意見】

- 参加者の多様性があるところはすばらしい。一般の人が一日だけテレビにでてくることへの思い入れ、親近感がある。ファイナルまで進んだスーツ姿の銀行員・宮岡さんがサラリーマンの星に見えた。
- 攻略の要素が多く、知力も鍛えないと駄目なあたりが非常に面白い。最終的に全員が全員を応援するようになっていて、敵味方に分かれるのではないスポーツのあり方が模索されている。
- ゲームに熱中するのではなく、ゲーム性を持ったテレビ番組をファミリーで鑑賞して楽しめるのは重要。こんなに希望が持てる、頑張りを子どもに見せられる番組は他にはないのでは。
- 「SASUKE」で一つの文化が生まれているのだなと強く感じた。近代五種

の中でどうなっていくのか、その中で「SASUKE」がどう進化していくのかを見たい。

- 一番組の中のコンテンツが五輪種目に採用されるというのは本当に驚き。スポーツの魅力や感動価値が「SASUKE」にも備わっているから種目採択に至ったのだろう。五輪種目を生み出した自負と責任をもって続けてほしい。
- TBSという放送局にとって財産となるコンテンツ。グローバルビジネスとして大きな成功例であること、そして今では少なくなった視聴者参加型番組であることも強み。テレビを見ている人にとって夢がある番組だ。
- 今回初めて見たが、競技がいきなり始まって何がなにやら、100人がどういう経緯で選ばれたのかもわからない。ファンを広げるなら、コースや選手の説明など工夫できるところがあるのでは。
- 2ndステージ、3rdステージになればなるほど緊張感もあり見入ってしまうのでそこは発展させつつ、初めて見る人のために番組の背景をもう少しわかる形に作ってはどうか。
- タレントや有名人の比率を減らしてもいいのでは。名スポーツ選手ですら紹介に時間が割かれずもったいない。
- コンセプトの「名もなきアスリートたちのオリンピック」、「名もなき」はともいい。タレントが出るとファンが見るのかもしれないが、「名もなき」に徹した方がこの番組はもっと強くなっていく感じがした。
- 途中で雨が降り、選手が滑って大けがするのではとヒヤヒヤした。万全の対策を講じていると思うが、「滑らない対策をしている」と一言でも番組内で触れた方がよかった。

【局からの回答】

- 初見の人とずっと見ている人、どこに合わせればいいのかは作りながら悩んでいる。「SASUKE」のよさは音を消していても言葉がわからなくても楽しめるところだが、どこまで説明するかというのは非常に参考になった。

- コロナ禍で一般出場者のオーディションができずタレントが増えたという経緯がある。一方でタレント出場者をきっかけにファンになってくれる視聴者もいて、バランスが本当に難しい。

- シミュレーションを重ね、雨が降っても安全であることを確認して収録を行っている。大勢のスタッフがタオルでセットを拭き、安全確認をしている裏側もあり、そういうところを絵にしてもいいのかなと改めて思った。